

福永健 学位論文審査要旨

主 査 原 田 省
副主査 梅 北 善 久
同 小 川 敏 英

主論文

Accuracy of semiquantitative dynamic contrast-enhanced MRI for differentiating type II from type I endometrial carcinoma

(type I と type II 子宮体癌を鑑別する半定量ダイナミック造影MRIの正確さ)

(著者：福永健、藤井進也、井上千恵、加藤亜結美、千酌潤、神納敏夫、小川敏英)

平成27年 Journal of Magnetic Resonance Imaging 41巻 1662頁～1668頁

参考論文

1. Myometrial invasion by endometrial carcinoma : evaluation with 3.0T MR imaging

(子宮体癌による筋層浸潤：3テスラMRIを用いた評価)

(著者：金田祥、藤井進也、福永健、柿手卓、神納敏夫、紀川純三、原田省、小川敏英)

平成23年 Abdominal Imaging 36巻 612頁～618頁

2. Correlation of apparent diffusion coefficient value with prognostic parameters of endometrioid carcinoma

(類内膜癌の予後パラメータとみかけの拡散係数値との相互関係)

(著者：井上千恵、藤井進也、金田祥、福永健、神納敏夫、紀川純三、原田省、
小川敏英)

平成27年 Journal of Magnetic Resonance Imaging 41巻 213頁～219頁

3. 子宮腺筋症から発生したと考えられた子宮体部類内膜腺癌の2例

(著者：福永健、藤井進也、井上千恵、椋田奈保子、柿手卓、大内泰文、田邊芳雄、
小川敏英)

平成28年 臨床放射線 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はダイナミック造影MRIを用いて、これまで特徴的な画像所見が明らかになっていないtype II 体癌のMRI所見を明らかにすることで、type I 体癌との鑑別を試みたものである。病変内に関心領域を設定し、その平均信号値から各造影パラメータを算出することで、子宮体癌の造影効果を半定量的に評価し、両者を比較検討した。その結果、type II 体癌はtype I 体癌より強く造影されることが明確となり、両者の鑑別においてダイナミック造影MRIの半定量評価法が有用であることが判明した。本研究における知見は、術前に子宮体癌の組織学的悪性度を推察するにあたって、低侵襲な診断法である造影MRIの有用性を示唆するもので有り、明らかに学術水準を高めたものと認める。